

American humor

49期生

I テーマ設定の理由

中学生になって英語を習ってきて、単語、文法やいろんなことを知りました。それで中2の自由研究のテーマは英語に関すること、と考えていましたが、普通に単語の由来とか調べてもおもしろくないし、皆にも今まで習ったことのないことを知ってほしかったから、ジョーク、ことわざを中心に調べていくことにし、「American humor」という題で設定しました。

II 研究方法

- (1) 文献調査
- (2) アンケート 中2を中心にジョークの対応の仕方などを調べた。

III 研究内容

1. アメリカ英語とイギリス英語

「アメリカ英語」と「イギリス英語」。言葉くらいは聞いたことあるでしょう。アメリカ英語とイギリス英語は、源を同じくする2つの流れといわれていますが、両方の国のことを調べると、その違いに驚かされます。言語は元は同じでも、異なった環境や文化の中では違った発展を遂げています。そこらへんにちょっと、ふれてみましょう。 注：〈英〉〈米〉はそれぞれイギリス英語、アメリカ英語を表す。

(1) 会話

〈米〉Hiと〈英〉Hello

友人や知人と出会った時、軽く、「やあ」とか「こんにちは」と声をかけるには、「Hi」と「Hello」が英米の英語で使われています。しかし、アメリカ英語では「Hi」が普通で、イギリス英語では「Hello」が一般的です。

これらの表現は、両方の英語で日常的に使われていますが、違いといえば、アメリカ英語における「Hi」の方が、イギリス英語の「Hello」より頻度が高いということです。それは、アメリカ人の方が気軽に誰にでも「Hi」と声をかけることが多いからです。

例えば、エレベーターなどたまたま乗り合わせた場合、アメリカ人は知らない人にでも「Hi」と声をかける事が多いが、イギリス人は知らない人には何も言わないのが普通です。

ちなみに、「おはよう」とか「こんにちは」と言うときは、「Good morning」とか「Good afternoon」とも言えますが、これらは英米両国において、「Hi」や「Hello」よりあらたまった表現なので、若い人々の打ち解けた会話では普通あまり使われません。

(2) 姓

英米両国における最も多い姓 (ファミリー・ネーム) は、どのように異なるのでしょうか。

▼表1 姓のトップ10

右の表を見ると、英米における違いよりも、似ているという方が目立ちます。Smithが両国においてトップであり、Johnson, Williams, Brown, Jones, Davisの6つが共通しているからです。姓は、祖先からずっと続いてきたものなので、言語の源を同じくする両国に共通性があるんだと思います。

	<米>	<英>
1	Smith	Smith
2	Johnson	Jones
3	Williams / Williamson	Williams
4	Brown	Brown
5	Jones	Taylor
6	Miller	Davies / Davis
7	Davis	Evans
8	Martin / Matinez / Martinson	Thomas
9	Anderson	Roberts
10	Wilson	Johnson

両国で最も多いSmithは、もともと「鍛冶屋」を意味し、中世のヨーロッパでは馬蹄や鋤ばかりでなく、剣やその他の武器、甲冑などを作る、極めて重要な職業だったと思われます。それゆえに、欧米では広く見られる姓となったのでしょう。

2. アメリカン・ユーモア

(1) アンケート結果

アンケートは、大きな間が①~⑤でできていて、①は英語のことわざと日本のことわざを結んでもらおうというもので、

- ① Just like selling ice cubes to Eskimos.
(まさにエスキモーに角氷(冷蔵庫)を売るようなもの)
- ② Prevention is better than cure.
(予防は治療よりも勝る)
- ③ Talk to wall. または Like beating the air (wind).
(壁に向かって話す、または、空気をたたくよう)

答えは、転ばぬ先の杖、雨後のたけのこ、雨降って地固まる、石橋をたたいて渡る、のれんに腕押し、井の中の蛙、釈迦に説法から選んでもらいました。①~③の答えは、①…釈迦に説法、②…転ばぬ先の杖、③…のれんに腕押し、です。

結構多くの方が正しい答えを書いていました。あえて間違いの例を言うならば、①と③の答えが逆というのがある、これくらいです。

問題にした①~③の英語のことわざ以外の日本のことわざとの違いがおもしろいことわざを少し、紹介しようと思います。

- ・悪銭身につかず
Ill spent. (不正に費やす)
- ・うそも方便
End justifies the means. (結果を正当化するには手段を選ばず)
- ・かわいい子には旅をさせよ
Spare the rod, spoil the child. (ムチを惜しむと子供をだめにする)
- ・もちつもたれつ
Give and take. (与え、もらう)

ちなみに、英語のことわざや、半ことわざ的な表現は、聖書やシェイクスピア等から出たものが多いということです。

②の問題は、野菜、果物を使った表現を、想像で日本語に訳してもらうというもので、①She was as cool as cucumber.

- ②She is a peach.
- ③She is the apple of my eye.
- ④Apple polishing.
- ⑤He has gone bananas.

かなり難しいので、③~⑤は正解者はゼロでした。①は5%、②は14%の人が正解しました。それぞれの答えは、①彼女はキュウリのように冷静だった、②すごい美人だ、③彼女は目に入れても痛くない、④ゴマすり、⑤頭がおかしくなった、です。

この問題は、野菜と果物を使ったおもしろい表現を問題化したわけですが、何故果物や野菜がこのようなおもしろい表現を生むのでしょうか。理由は2つ挙げられます。1つは、fruit と vegetable の語源。それぞれラテン語の *frui* と *vegere* がそれぞれの語源です。*frui* の意味は「楽しみ、成果」で、*vegere* の意味は、「元気」。野菜と果物の語源が *vegere* と *frui* であるのは、人生を元気で楽しむには果物と野菜が一番という古人の知恵からでしょう。2つめは、英語には頭韻をふむ伝統があるということです。例えば *Curiosity killed the cat.* (心配は身の毒) や、*clean and clear* (きれいでしかも明快な)、*beauty and the beast* (美女と野獣) など。①も例外ではありません。

③、④の問題は、アメリカのジョークを問題化して、自分だったらどうジョークを言うかということを書いてもらいました。

注：<米> はアメリカ的なジョーク、<日> はアンケートで書かれたものです。

①ところで、赤ちゃんの弟にあげるクリスマスプレゼントは何にするつもりなの？ —— <米> さあね。去年ははしかをあげちゃったしね。

<日> 名前をプレゼントしようと思うんだけど。

老眼鏡をあげるわ。

もちろん問題集。

上記の<日>のジョークは、ほんの一部のものです。

アメリカ的なジョークは見られませんでした。特徴は、本当に赤ちゃんに適したものをあげる(ミルク、ベビーベッドなど)と書いた人と、老人向

けのものをあげる（杖、老眼鏡など）と書いた人、何もあげないと書いた人、この3つが主です。中には、「愛情をあげるさっ／＼」なんてものもポツポツ見かけましたが…。3つめの「もちろん問題集」というのは、頭のいい子に育てたいのでしょうか？

②トミー、どうして妹のベッドに蛙を入れたりしたの!?

——— 〈米〉ネズミが見つからなかったからさ。

〈日〉カエルが寒そうだったからだよ。

カエルがあまりにもかわいいからあげたんだ。

妹がカエルの解剖をしたって言ったんだもん。

これもアメリカ人的なジョークはありませんでしたが、私はアンケートで書かれた日本的ジョークが好きです。何となくほのぼのしていていいと思います。3つめのジョーク、とても奇抜ですが、2～3人の人が書いていました。察するに、これは生物の授業が関わっていると思われます。このアンケートをする前、生物の授業でカエルの解剖の話が出たので、こういうジョークが出たんでしょう。あらためてジョークは日常生活にきちんと関わっているんだなと思いました。

③トミー、戸棚の中にパイを2切れ入れておいたのに1切れしかないのはどうしてなの？本当のことを言いなさい。

——— 〈米〉あんまり暗くてさ、もう1切れあるのが分かんなかったんだよ。

〈日〉カビが生えてたから捨てちゃった。

場所を移したんだ。きっと今頃僕の胃の中だよ。

④ビリー、もし君のズボンの片方のポケットに2ドル、もう片方に5ドル入っていたら合計いくらになる？

——— 〈米〉僕のじゃない。他の人のだよ。

〈日〉僕、もう全部使っちゃったからすっからかん。

これは今までと違って少し似ています。自分はお金を持ってないという事です。アメリカ人の子供も日本人の子供もおこづかい事情は同じなのでしょう…。

⑤この請求書の山を見てごらん。どれもこれも高くなっている。ガス代、電話代、食費、衣服費、医療費と…。1つでもいいから下がってくれたら嬉しいんだがな。

——— 〈米〉分かったよ。じゃあ僕の成績表を見て。

〈日〉僕のおこづかいが減ってるよ。

僕の成績を見るといいよ。

びっただし同じジョークだったということは、アメリカの子供も日本の子供も成績に頭を悩ませているんでしょう。

⑥電気と稲光の違いは何ですか？

——— 〈米〉稲光はタダです。

〈日〉停電させる方とする方です。

⑦一緒に学校ごっこしようよ。

——— 〈米〉いいとも。僕は休んだ子の役をするよ。

〈日〉やだ。本当の学校だけで十分。

じゃあ私、先生、あなたも先生。

これが一番おもしろかったです。特に1番目のなんかすごく感情がこもってて…。

④の問題は、アメリカのレストランジョークを問題化したものです。

「ねえ、ちょっと君、スープにハエが浮かんでるぞ」

——— 〈米〉しっ、他のお客様が欲しがるといけませんから。

・75セントではハエがせいぜいです。ネズミをお望みならもっと値がはりますよ。

・ただ今ハチをきらしてあります。

・大丈夫です。ハエはそんなに飲みませんから。

〈日〉ハエがスープを飲み終わればどこかへ行くでしょう。

・当店のかくし味です。



これは、書いていない人が多かったです。

ここで、アメリカのおもしろいジョークを紹介しましょう。

・床屋でハゲを気にしている客が言うには、「毛が少ないんだから散髪料金を半分にまけてもらいたいもんだ。」「お客さん、半分は散髪料、半分は髪を採す手間代に頂いておきます。」

・私の妻は美容院で泥パックをしてもらってきた。2日間はよかったけど3日目に泥がはがれてしまった。

・患者：私、物忘れが激しいんです。どうしたらいいでしょう。

医者：前金で払ってもらおう。

⑤は、生活の違いをみるためにヘソクリの隠し場所を答えてもらいました。

▼アンケート結果

ヘソクリの隠し場所 Best 4

1	本の間
2	引き出し
3	身につける・持っている物の中
4	本棚やタンスの奥もしくはすき間

左の表以外、つまり5位以下は数が多いので少しだけ紹介します。

・CDケース ・マクラカバー ・マットの下 ・机の上（ごちゃごちゃしてて絶対に分かりっこないらしいです）

アメリカ人のヘソクリの多い場所は石けんの下。理由は石けんを使って顔を洗ったり手を洗ったりしないからです。

日本人のヘソクリの隠し場所をアンケートによって分析すると、本は、まあ、使わないというものもあるでしょうが、2位3位のものはよく使うものの中です。つまり、アメリカ人は、自他共に使わない物に隠し、日本人は、他の人は使わないが、自分が使う物に隠すということをするようです。

ならばもし、アメリカ人が「ヘソクリを辞書の間に隠す」日本人の話を知ったら、「日本人は辞書を使わないのか」なんて思われるかもしれません。

IV 結論(考察)

今までアメリカ人と日本人のジョークを比べてきたわけですが、やっぱり日本人はかたい。あらためてアメリカ人の柔軟さに驚かされました。

なぜこんなに違いが出るのか。それは、性格の違いではないでしょうか。アメリカ人は結構オープンで、人格と意見とは全く違うもの、という見方をします。それに比べて、日本人は、結構自分のからを持っていて、人格と意見とを平行して見ます。それに、何より真面目。だってさっきのレストランジョークみたいなことを実際に言うウェイターはいないでしょう。私だってそんなジョークで軽く受け流されたら気を悪くするでしょうし。

日本の人も、軽いジョークをとばして仲良くなれたら、とてもいいと思いますが、ひと口にジョークと言っても人を傷付けてしまうものもあります。そこらへんを配慮していつでも明るい雰囲気のできたら、すごく素敵なことだと思います。

V 総括(まとめ)

ジョークは、相手を楽しませ、その場の雰囲気を和らげます。でも、結論で述べたように、人を傷付けてしまうこともあります。そうならないようにするには、以下のことを気を付けねばならないと思います。

1. オチが分かる人に言う → 傷付けない相手に
2. スラスラと言う
3. タイミング
4. 言い返し

アメリカ人は、1~4のことに気を使ってユーモアを高めて、発想をずば抜けたものになりました。それに比べて、やっぱり日本人はかたいです。でも悪いことではないと思います。前に書いたと思いますが、ジョークは日常生活に関わっています。その日常生活の違いは、環境やその国の歴史などが関係していると思います。その繁栄した一つの形がジョーク、ユーモアや発想だと思うんです。でも、それぞれ気になることはあります。そういうところは、それぞれのいいところを見習って、直していけばいいと思います。

ジョーク、ユーモアはコミュニケーションの一つとして、とても素晴らしいものだな、と思いました。

参考文献

- ・鈴木 進(平成5年)「アメリカン・ユーモア」丸善ライブラリー 170P.
- ・大石 五雄(平成6年)「アメリカ英語とイギリス英語」丸善ライブラリー 200P.
- ・林 俊一(平成7年)「英文レター 実例集」日本文芸社 231P.
- ・坂下 昇(1984年)「現代米語 コーパス辞典」552P.
- ・秋澤 公二(平成5年)「アメリカ英語の発想」丸善ライブラリー 218P.